

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100459		
法人名	医療法人おもと会		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	沖縄県那覇市寄宮1丁目9番地の5		
自己評価作成日	平成27年12月25日	評価結果市町村受理日	平成27年6月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=4790100459-00&PrefCd=47&Vers_ionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成27年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 笑顔と元気をモットーにしています。 入居者様に安心して生活していただけるように家庭的な環境、真心を込めて支援いたします。 ご家族様支援も大事に考え実践しています。 質の良いサービスの提供ができるように職員のスキルアップを行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、母体医療法人が所有する8階建有料老人ホームを含む複合施設の4階に設置され、同フロア内にある小規模多機能ホームと行き来ができ、合同で行事を開催する等の交流が行われている。上階にある24時間対応の訪問看護ステーションや系列クリニックの訪問診療と連携し、本人や家族が安心して、納得の行く終末期を迎えられるようチームで支援に取り組んでいる。安全感染委員会や褥瘡委員会等、6つの委員会がある。年間行事計画や広報誌を作成する委員会もあり、記録や文書が整備されている。県外研修に職員を派遣し、事業所でも内部研修や勉強会を行い、職員の資質向上や資格取得に向けて支援する体制がある。家族と密に連絡を取って関係性を築き、家族の面会や友人の訪問が途絶えないよう、外出や外食時の送迎支援にも取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成27年4月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、職員詰所、ホーム内の見えやすい場所に理念を掲示し、全職員で理解・実践している。	開設当初に管理者と法人代表が話し合って作成した地域密着型としての理念に基づき、職員一人ひとりが毎月の目標を掲げて支援に取り組んでいる。主任は個人目標の達成状況を確認し、管理者へ報告して評価を得ながらケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所に係わる4自治会の清掃活動、敬老会や新年会、民生員忘年会などの行事に協力・参加して交流を図っている。	自治会主催の敬老会や納涼祭の会場設営、清掃活動等に職員が参加している。管理者は自治会相談役の自宅を訪問して挨拶を交わし、近隣4か所の自治会長からは、忘年会や行事の案内を受けるなど、密に連携を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会の行事や運営推進会議の場において、ホームの取り組み等の説明をさせてもらい入居する認知症の人のりかいや支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開催し、ホームでの現状、支援内容の報告、那覇市や地域包括支援センター、地域自治会との情報共有を行っている。	運営推進会議は年6回偶数月に開催され、市担当者や4自治会長が参加し、自治会からの協力依頼もある。利用者や家族は体調によって参加できない事もある。入居状況や行事、活動内容、事故やヒヤリ・ハット、外部評価の検討内容や取り組みについて報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2カ月毎の「那覇市グループホーム連絡会」へ参加し、情報交換や市の担当者からのアドバイス等、交流を図っている。	管理者は、市の窓口の訪問や那覇市グループホーム連絡会に参加して、市担当者と情報交換を行っている。市担当者からはアドバイスやボランティアのポイント制についての説明を受けるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず身体抑制が必要と判断された場合には、ご家族への説明と同意を得て、介護記録への記載、抑制解除に向けてのカンファレンスを行っている。	2名の家族から「転落防止のため4点柵をしてほしい」との要望があり、リスクについて家族に説明し、昼寝の時間帯のみ使用する確認書を作成している。実施している身体拘束については、経過記録の検討結果から解除に向けて家族とも話し合いを進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内、外部勉強会に参加し学び、職員全体で虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで該当者がいないため支援を行ったことはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定や重要事項説明書の書面、口頭にて十分な説明を行い、入居者様やご家族が理解、納得した上で契約、解除を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や行事への参加呼びかけをしている。家族会では意見・要望を確認している。	利用者の要望等は直接聞いたり、表情や目の動き等で確認している。家族からは面会に訪れた際や家族会の場で、意向や思いを聞いている。「利用者の気分転換を兼ねて8階で散歩をさせて欲しい」との要望があり、法人の許可を得て屋上でパーベキューや散歩を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例ミーティングにおいて職員の意見、要望を聞きだし、提案された事項は迅速に検討、反映されるように努めている。	職員とはミーティング時に意見や要望を話す機会としている。利用者の私物購入を家族に伝える際に居室担当職員が連絡することで、二重に購入する事がなくなった。行事委員からの勤務体制の要望で、居室担当をフリーにして個別支援などの意見が出され、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠管理は常に配慮している。また、委員会の配置は各々の得意・不得意を考慮し、力や能力が活かせる工夫をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修(認知症・救急救命)への派遣、定例会で研究発表する機会を設け、自己研鑽を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護者研修やガウディー会への参加、他事業所との交流を通してケアの質の向上、モチベーションアップを図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の実態調査において、本人様の要望や不安などを傾聴し、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を確認、ホームのサービス内容、家族支援内容の説明を行い、ご家族との信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を基に詳細にアセスメントを行い、入居時の本人様の観察をして必要なサービス、方向性を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境の中で炊事や家事、水撒きなど、各々に合った役割を設け、手伝ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会の声掛けや誕生会、行事等にご家族を交えた活動を通して、入居者様が孤立しないように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との面会、外出等の体制づくりを行っている。	関係性の継続として、家族と月1回外食をするために、外食先の和食の店等への送迎の支援をしている。利用者の元職場の同僚が、好みの歌謡曲のCDをプレゼントして居室で聞くなど、関係性が途切れないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓席の配慮、余暇活動への参加声掛けを行い、入居者様が孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族の相談できる機会づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の確認が困難な場合でも、ご家族からの情報を参考に入居者様に合った支援に努めている。	利用者の「字を書きたい」という一言で習字の時間を設け、希望者が参加し、作品は壁に展示している。「もう一度自宅で生活がしたい」との願望のある方は、家族と話し合って望みが叶うよう支援に努めている。意思をうまく伝える事ができない方は、目の動き等で確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談の実態調査において、本人様やご家族から十分に話を聞き、入居前の事業所からの情報提供を依頼、把握してホームに入居しても極端な環境の変化が起こらないように努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日常の変化に気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員は、定例ミーティングにおいて入居者様、ご家族からの要望、意見等を報告し、職員からは介護状況の情報を共有し、迅速に対応している。	ケアマネージャーは職員から利用者の状況を確認し、サービス担当者会議で利用者や家族の意向を聞いている。歯科衛生士等も参加して、半年に1回の定期および随時の見直しを行っている。3か月に1回モニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者各々の状態、様子等を個人記録へ記入して職員間で情報を共有し、迅速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望、意見等がある場合は、迅速に検討、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サービス計画書を作成する前に情報収集を行い、プラン作成に反映している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	すべての入居者は法人内の「クリニック安里」からの訪問診療により、適切な医療を受けている。	内科中心の訪問診療を月2回、全利用者が受けている。又、希望者には訪問歯科も月2回実施しており、義歯の装着で姿勢が良くなったり、歯茎の痛みの緩和に繋がる等、口腔ケアの成果が見られる。他科受診は、基本的に家族が介護タクシーを利用して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一建物内の「訪問看護ステーション」と24時間連携し、入居者様の薬剤、体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の経過報告、情報提供、退院前のカンファレンス会議への参加をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は初めての看取りを行った。本人・家族の意向を優先に、これからもご家族、訪問診療、訪問看護、関係者、介護スタッフがチームとなって支援に取り組む。	看取りに関する指針について家族に説明し、意思確認書を取って同意を得ている。家族と主治医、訪問看護師等関係者と話し合いながら進めた看取りの実績が1例ある。重度化や看取りの勉強会等は行っていないが、月1回の職員ミーティングで管理者が心構え等を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成、設置している。全職員、AED研修を受講して知識、技術の実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルの作成、掲示を行っている。避難訓練は年2回実施しているが、地域との協力体制は未だ確立されていない。	複合施設合同で昼夜を想定した消防訓練を消防署委託業者立ち合いのもと実施している。運営推進会議の委員等に参加協力や地域への声かけを依頼したが、地域住民の参加は見られない。備蓄に関しては、食料等は同建物2階厨房で、オムツや毛布等は事業所で準備している。	非常災害時に地域住民の協力が得られるような住民への働きかけの工夫、及び利用者を安全に避難誘導できるような地域住民との協力体制の構築に期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員、接遇を意識し入居者様への声掛けに気をつけている。声掛けに不適切な場面では、職員間で注意し合うよう心がけている。	管理者は、「自身がケアされて嫌な事」や「自分の親に対する言葉づかいや態度として考えた場合、どうか」を考えて、利用者への支援を行うように職員に伝えている。トイレはフロアーに面しないように設計され、プライバシーに配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定できる声掛け、環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合った生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際、ご自分で衣服を選んでもらっている。自宅から姿見を持ってきておしゃれを楽しんでいる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげとり、野菜切り、食器洗いなど入居者様の力量に合わせた役割を行っている。	食事前に、誤嚥予防や唾液の分泌促進のための口腔体操を行っている。職員が試食をして食事の改善につなげる仕組みを取っている。利用者はもやしのヒゲ取りや食器洗いなどに参加している。職員は弁当等を持参して利用者と同じテーブルで食べている。	食事の一連の作業を利用者と共に行い、一緒に同じ食事を味わいながら食材や色合い、盛り付け等の会話を楽しむなどの取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立表を使用して栄養バランスは整っている。チェック表を活用して食事摂取量や水分摂取量の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア支援を行っている。状態によっては、訪問歯科を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握、定時のトイレ誘導、オムツ交換を行い支援している。	全職員が女性で、契約時に家族に説明しており、排泄介助前にも同意を得て支援している。夜間のオムツ使用者も昼間は声かけてトイレでの排泄を支援している。個別対応で、お腹をさわる仕草を確認してトイレへ誘導したり、腹部マッサージ等を実施してトイレ排泄ができるようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々に応じた便秘予防（水分補給や運動）に取り組んでいる。毎朝、おやつ時に牛乳やヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は設定しているが、希望によっては曜日の変更の対応もしている。担当職員が入居者様のペースに合わせて脱衣、入浴、着衣、整容までの支援を行っている。	入浴は、シャワー浴で週2回の午前中を基本としている。リラックスや保湿、手の拘縮予防を目的として、昼食前やおやつ後にタオルで温める手浴と足浴を交互に実施している。入浴後に着替える服も自分で選べるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと休息してもらえるように居室内外の環境、空調調整等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問看護職員を中心に薬の管理は行っている。薬の諸注意や用法についてはカルテに綴っていつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の好みを把握し、花壇の水やり、カラオケ、体操、塗り絵、マッサージなどを職員と一緒に楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員や家族と同行して近くの公園や隣の小規模ホームや階下へ散歩したり、おやつを買いにスーパーまで車で出かけたりしている。	複合施設の1階まで降りて周辺を散歩したり、近隣のスーパーでの嗜好品や消耗品(歯ブラシ等)の買い物などを支援している。又、複合施設内デイサービスのリフト車両を借りて初詣に出かけたり、手作りのお弁当を持参して公園で食べたり、桜まつりに出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者全員が家族管理。ホームではお小遣いを預かり、金銭出納帳に記入して買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者様の要望に応じて、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやソファの配置に工夫、安全に楽しくくつろげるよう環境づくりに取り組んでいる。	事業所内にオレンジ色のソファが設置され、そこで、入居者が洗濯物を畳んだり、家族が面会に来た時に一緒に会話を楽しんだりしている。畳間は、折り紙をしたり、お茶を楽しんだり、足を伸ばしてリラックスする場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、ソファの配置に気をつけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段使用していた家財道具や小物などを自由に持ってきてもらい、できるだけ自宅に近い環境づくりを心掛けている。	居室はベッドやタンス、車いす用洗面台が設置されている。利用者は、自宅からテレビやラジオ、ぬいぐるみ、羽毛布団等を持ち込み、その人らしく暮らせる居室となっている。本人や家族が希望すれば、名前のプレートも隠せるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目で見て分かるよう掲示物(表示)にて場所を示している。		